

## 児童発達支援センターに配置する指導主事の役割

### 1 現 状

- ① 福祉部門と教育部門、それぞれが発達特性のある子どもへの支援を行っているが、双方の間で課題に関する情報や、支援の方針を共有することが難しい場合がある。
- ② 就学時等のライフステージ移行期に、支援が途切れてしまう場合がある。
- ③ 相談窓口が分散しており、どこに相談すれば良いのか保護者に分かりにくい。

### 2 課 題

- ① 相談窓口の一体化
- ② 福祉、子育て、教育の一体的な支援

### 3 対応策

- ① 福祉、子育て、教育の窓口を一体化し、相談に対応できる専門職員、保健師、社会福祉士、保育士、指導主事を配置する。
- ② 特に、指導主事（教職員）を配置することは、教育関係の相談について、学校への迅速なつながりが可能となる。

### 4 指導主事の役割

- ① 迅速な相談への対応と教育現場とのパイプ役機能を担い、学校、教育委員会、こども未来室等との緊密な連携が図られる。
- ② 児童発達支援センターでは保護者からの相談が中心になると考えられ、保護者や関係機関との個別調整は教育現場（学校）には大きな負担となる。  
児童発達支援センターで指導主事が相談を受け、内容を整理した上で学校と話すことにより、教育現場の負担軽減と学校とのスムーズな調整が可能となる。
- ③ 学校での「発達支援シート」の活用を促進するための調整を円滑に行える。
- ④ 発達課題のある子どもの初期相談から関わり、保護者に特別支援教育や通所支援の情報を提供するとともに、保護者理解を促進した上で就学につなげることができる。
- ⑤ 就学相談の前の段階から発達支援を要する子どもを把握でき、茶おちゃお・就学相談、小学校の学級編成等へスムーズにつなぐことができる。

【参考】日野市では、教育支援課と発達支援課を同じフロアに配置して福祉と教育の一体化した窓口を設置しているが、指導主事が配置されていない（事務職のみ）。支援の場面では、学校との円滑な調整を行うことが難しく苦慮している。